

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	「一日一笑」という理念をフロアの見えるところに掲示したり、日誌等に掲載し共有している。1人1人の利用者様に合った話しの内容を提供したり、楽しんでもらえるよう心掛けている。	理念を普段から意識できるように事業所の玄関や共有スペースへの掲示、業務日誌にも掲載しています。また、年度のはじめには個人目標も設定し、理念が実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の祭事が中止となり難しい面もあるが、地区クリーン作戦やゴミステーション掃除などに参加している。また地産野菜を提供し地産地消に努めている。普段の散歩の際は、地域の方と挨拶や会話をしている。	地域のクリーン作戦にご利用者と一緒に参加したり、雑巾を中学校に寄付しています。また現在は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、保育園の園児に来て頂いたり、お遊戯会や運動会に見学にも出かけたり、事業所の納涼祭には地域の方に参加して頂くなどし、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを活用し学ぶ機会を作り、地域の方やご家族様をお招きし交流していたが、コロナ禍以降の参加者は著しい。運営推進会議では情報交換を行っている。災害時の避難場所に指定されており、地域の防災台帳へ利用者様も登録されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様・ご家族様・地域の方々から参加していただき、日常の様子などの報告・情報交換を行っている。客観的なご意見をいただくことで、内部だけでは見えてこなかった課題・評価を見つけることができる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、区長、市の担当者、地域包括支援センター職員、他事業所の職員等から参加してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、不参加のご家族にも内容が分かるように議事録を送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者・ケアマネージャーを中心に連携を図り、2カ月に1回の運営推進会議に参加していただき情報交換を行っている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、不明な点について連絡を取り連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については緊急時や夜間以外は行なわず、その他の身体拘束についても日頃から問題意識をもって話し合っている。必要であればご家族様と話し合いの場を設けるようにしている。運営推進会議を利用し身体拘束について学ぶ機会を設けている。	身体拘束のマニュアルを作成し研修会や検討会も実施し周知徹底をしているほか、玄関の施錠も夜間や緊急時以外はしないようにし、チェック表を使用して振り返りの機会も設けるなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束の研修会を実施した際には研修報告書を作成し、誰がいつ、どのように研修を実施したのかが分かるようにされることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて高齢者虐待についても、会議等で学ぶ機会を設けている。会議を活かし、一人ひとりが意識してご利用者様と関わるようにしている。また入浴時は全身チェックを行っている。	入浴時などに身体チェックを行っているほか、研修会も実施し、ご利用者同士の言葉の攻撃の防止にも力をいれて職員に周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	虐待防止の研修会を実施した際には研修報告書を作成し、誰がいつ、どのように研修を実施したのかが分かるようにされることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨今需要が増えてきており、職員一人ひとりが学びたいと思っているが、研修や勉強会がなく学ぶ機会がもてていない。必要な方がいれば、管理者・ケアマネージャーを中心に関係者と連携を図り、話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネージャーが主に行っており、改正時にはご家族様に説明し同意を得ている。契約時等ご家族様へも不明な点などを伺い、不安等がないか確認している。職員へも定期会議や報告書等で理解できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や受診時などにご家族様と意見交換が行えるよう職員から話し掛けるようにしている。ご利用者様とご家族様の会話は必要時には記録に残し、今後に活かせるようにしている。苦情窓口も設けている。	面会時や受診の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、玄関に意見箱を置くなど、ご家族からの意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期会議で意見交換や話し合いを行っているが、一人ひとりと時間をかけて話す機会は少ない。代表者と個々での話し合いの場もない。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、申し送りノートに記入してもらおうようにしており、毎月の会議の場で職員同士で検討が行われ、改善に繋がっています。また、管理者との個別面談の機会も設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合わせて勤務時間を変更するところもあり、環境整備に努めている。個々の実績・資格所得することにより給与に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期会議に内部研修を行い、学びの場を設けている。職員間で回数は異なるが外部研修にも参加してもらい、知識を高められるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降、近隣事業所との関わりはほぼなくなった。運営推進会議を通じて多職種からの意見を伺うことで学ぶことができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご自宅・病院等で、ご本人様やご家族様に困っていることや要望を伺っている。意思疎通の難しい方には生活歴や嗜好品などをご家族様から伺い、得た情報は職員間で情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネジャーを中心に入居前には必ずご家族様とも話し合い・要望も伺うようにしている。入居後3日目でご家族様へ様子をお伝えしている。ケアプラン作成時にはご家族様の意見・要望も取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の他に担当のケアマネジャーやケースワーカーからの情報も踏まえ必要な支援を見極めている。時には他のサービスも検討しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や台所仕事など以前の生活で当たり前に行っていたことを続けていけるよう声掛けを行っている。暮らしを共にする者同士として、その日の体調や気分配慮しながら、できることはしていただき、できない所の支援を心掛けている。感謝を伝える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍に伴い、面会等制限がかかり要望に添えないこともあるが、ご本人様とご家族様の交流が途切れてしまわないよう受診の付き添い依頼を継続し依頼している。また毎月のお手紙や希望時にはお電話で家族の交流や、様子をお伝えし連携を図っている。	事業所広報を2ヶ月に1度送付しているほか、担当職員より毎月個別にお手紙をお送りし、事業所での生活の様子をお伝えしています。受診の支援もご家族の協力をいただいております。一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様(子・兄弟姉妹等)、友人の面会や電話があった際には、ゆっくりとお話しができるよう対応している。ご本人様の自宅や田んぼなどにもドライブに出掛けたりしている。	新型コロナウイルスの影響で制限もありますが、友人に面会に来て頂いたり、ご家族の協力いただき自宅やお墓参りに出かけるなど、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度や認知症進行状況によって、会話の橋渡しやご利用者様同士の相性などを考慮し支援している。ご利用者様同士で声を掛け合い会話をする様子も見られている。レク活動や食事席の配慮にも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて対応している。コロナ禍により面会制限もあり、現状は難しい。ただ退所されたあと、亡くなられた際にご連絡を下さるご家族様が多くいられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話を大切にし、記録に残したり、定期会議で職員間で情報共有し取り入れられることはしている。困難な方は、日常生活の中から察するように努めている。ケアプラン更新時には思いや暮らし方の希望を伺っている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議で共有され、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議には参加が可能なご家族には参加していただき、要望を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様やご家族様等からお話しを伺い職員間で情報共有している。また入居後も日常生活の中から以前していた職業や暮らし方などを伺い情報収集するように努めている。	入居時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、年に1度は担当者がセンター方式の見直しも行い、定期的に新たに得られた情報の追加も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送りにて1日の過ごし方や日々の変化の把握に努めている。職員と共に、洗濯や掃除・レク活動等を通して有する力や現状把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にはケアマネジャー・担当者が主体となり、ご本人様の思いに注目し、ご本人様・ご家族様と話し合いを行い介護計画書を作成している。急を要する場合は、その日の職員間で話し合い臨機応変に対応出来るようにしている。	ケアプランの検討はご本人・ご家族も交え実施し、6か月毎の短期目標、1年毎の長期目標を決定しています。モニタリングも担当介護職員により毎月実施し、その内容をもとに毎月のカンファレンスで職員間で検討が行われています。	介護計画書の同意日の記載について実際に同意された日付と異なる方もいましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やいつもと違う様子があれば生活記録に残し、職員間で話し合いを行い情報共有を徹底している。定期会議では実践の結果等を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様・ご家族様の状況やニーズに合わせ相談・助言を行っている。特養への申請や往診医等、ご家族様が必要としている情報はお伝えしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に伴い、地域の保育園や地域の祭事・公共施設への外出等が行えなかった。ご利用者様に古紙をまとめていただき、地域の古紙回収業者が受け取りに月1回来館して下さる。法人内の畑を利用し野菜収穫をしていただき楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へご家族様に付き添いのもと受診し、必要時には報告書にてご家族様・主治医に状態報告を行なっている。遠方のご家族様には、その都度電話や手紙を利用し報告連絡相談を行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、往診にも来て頂いており、手紙や電話にて医師と状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化が見られた際は、職員間で情報共有をしている。看護職員は配置していないが、資格を有する者に相談・助言をいただき早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネジャーを中心に医療機関と連携を図り、入退院時の情報提供を行っている。退院の見込みや経過について、情報交換や話し合いを行っている。なお得た情報は職員へも経過記録等を活用し周知している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアを行えないことの説明は行なっている。現状、思いを伝えられるご利用者様・ご家族様に終末期をどう迎えたいか話し合いをもつことはできていない。急に状態が悪化することもあり、ご家族様や職員の対応が追いつかないこともある。	事業所でも重度化した場合の対応に係る指針を作成し、契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームですることを伝え、支援していきたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より来ていただき、救急法(AED含め)の訓練を行っている。緊急時の対応マニュアルはあるが、応急手当については不安もある。	消防署職員に事業所に来てもらい救急法の講習も受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定し避難訓練を行っている。車椅子での避難には不安が残る部分もある。訓練後改善策等確認を行い、振り返りも行っている。普段外へ散歩に出掛ける際は、地域の方と挨拶をしている。	年に2回、火災や地震を想定した避難訓練を行っています。新型コロナウイルスの影響で制限していますが、地域の方にも協力を得られるよう、地域の方にも事業所の避難訓練に参加して頂くこともありました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日生活する中で言葉遣いには特に気をつけ、自尊心を傷つけないよう心掛けている。居室での時間も大切に、居室には鍵もあり、必要な方は使用していただいている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報でのご利用者の写真の掲載やホームでの掲示についても書面で同意を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から、食べたいものや、やりたいことを伺い、叶えられる様に努めている。外出やレク活動の際、拒否があつた場合には無理に行わずご本人様の意思を尊重するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間は職員が少なく、日中に入浴時間を設けてしまっている。外出やレク活動はできる限り希望に添って出来るようにしている。眠気の強い日や、入浴拒否があった場合はご本人様の意思を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、ご本人様に好きな洋服を選んでいただいている。散髪も好きな時に行えるように随時依頼をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、野菜収穫なども一緒に行っている。嗜好品に関しては、極力対応している。テーブル拭きや、下膳を行える方には協力していただいている。	ご利用者にも出来る範囲で野菜の皮むきや、食器拭き等も行ってもらっています。誕生日など特別な日にはご利用者の要望に合わせたメニューを提供したり、畑での野菜の収穫と一緒に楽しむこともありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量を提供するように心掛けている。水分量には特に気に掛け、少ない方には声掛け介助を行っている。ご利用者様の嗜好品にも気に掛け対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。ご自分ではケアが不十分な場合には介助を行っている。義歯使用者は義歯洗浄剤を利用し清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握する為に、記録に残し、定期会議で職員間で情報共有を行い、一人ひとりのケアに繋げている。トイレに行こうとされない方には、声掛け行ったり、ご自身でパッド交換できる方には、出来ない部分のみ介助を行うようにしている。	ご利用者全員に排尿・排便のチェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように気を付けて、摂取の少ない方には声掛けし促すようにしている。体操も取り入れたり、個々に処方されている下剤にて調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前中が多く、ご本人様の希望には添えていないことが多い。夜間帯は職員体制的に行えていない。眠気の強い時や、入浴拒否がある場合はご本人様の意思を尊重している。	ご利用者の希望に添った入浴支援をしており、拒否がある方にもタイミングを見計らい対応し、入浴して頂けるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中はレク活動や体操・日光浴・散歩等その日の体調をみて行っている。夜間休まれる時間は個々のタイミングで休んでいただいている。室内の温度調整や照明にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握に努めているが、全ては把握できていない。薬が変更や新しく追加された際には、記録に残し、職員間で情報共有を行っている。またそのことによる状態変化の把握にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様のやりたい事を伺いながら、個々にあった楽しみや役割を見つけ出し支援している。集団レクを行ったり、集団が苦手な方へは個別に対応する時間を設け関わる時間をつくるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に伴い、外出レクは行なえなかった。天気の良い日には希望を伺いながら、日光浴や散歩・ドライブなどは行っている。ご家族様の協力のもと、外出・外食されたり、自宅に戻られたりする時間を作って下さっている。地域の方々の協力は得られていない。	新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、季節に合わせたお花見や鯉のぼり見学、もみじ見学などの外出は実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理は行っていない。ご家族様の了承のもと持つこともできるが、現在持ってもらえる方はいない。買物は施設が立替のもと好きなもの・洋服等買っていただけよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。ご家族様や友人等から電話があった際には、ゆっくと話せるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月壁画をご利用者様と一緒に作成し、季節感を味わえるようにしている。椅子の並べ方やトイレまでの動線確保・整理整頓を心掛け、心地の良い空間づくりに努めている。温度・湿度にも気を配っており、寒い方などがいれば羽織る物を着ていただくなど対応している。	リビングにはソファが置かれ、ゆっくりとテレビを見ながらくつろげる環境になっています。近所の方から頂いたお花を飾ったり、季節に合わせた作品を飾ったりと季節に合わせた装飾を意識しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファを置き、ご利用者様同士で話しが出来るように配慮している。食事席でも新聞・雑誌を読まれたり、ご利用者様同士で談笑する姿が見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご自宅で使用していた家具や写真、仏壇等馴染の物・大切な物を持って来ていただけるように、ご家族様に依頼している。居室内の配置も、ご本人様・ご家族様と相談をしながら行っている。	居室には、タンスや机などの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には物を置かず、トイレや居室・タンスの中身の場所が分かりやすいように表示をしている。ご本人様のできることを定期会議で話し合い、できることに目を向けるよう心掛けている。必要に応じて、居室内の環境整備にも臨機応変に対応している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				